

事業計画書

1. 申請する法人について										
法人名		特定非営利活動法人 マナビダネ								
法人の設立登記日		2022	年	4	月	21	日			
法人設立前の団体の設立日		2021	年	9	月	8	日	※NPO法人設立前に任意団体等で活動実績がある場合は記載する		
ホームページ・SNS	ホームページ	https://www.manabidane.org/				Facebook	https://www.facebook.com/manabidane			
	X (旧Twitter)					YouTube	https://www.youtube.com/@不登校の親子のための学びの			
	Instagram	https://www.instagram.com/manabidane2021/				その他	https://lin.ee/8z2Sg8J			
活動歴・これまでの活動実績 <各活動90字以内>	活動①	フリースクール「いろいろダネ」および「いろいろダネ+」の運営（居場所提供と体験活動、個別学習支援による学び直し）								
	活動②	利用家庭への保護者支援（面談・情報共有を通じた子ども理解と関わり方の伴走）								
	活動③	LINE公式やSNS等を利用した情報発信（不登校支援情報や活動紹介、見学・相談への導線整備、支援につながる接点の創出）								
	活動④	地域連携による体験活動の実施（企業・団体と連携した社会体験や交流機会の創出）								
	活動⑤	不登校支援に関する冊子作成・配布および講演・シンポジウムの開催（情報発信と理解促進）								
助成金等の交付実績 ※ 2023年4月～2026年3月に交付された助成金等を記載 ※ 5件以上ある場合は、直近のものから5件を記載	助成金等名称		交付者		交付年月			交付額		
	助成金等①	令和5年度埼玉県NPO活動促進助成事業	埼玉県		2023	年	7	月	500,000	円
	助成金等②	令和6年度埼玉県NPO活動促進助成事業	埼玉県		2024	年	6	月	500,000	円
	助成金等③	ひまわり基金助成事業	社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会		2024	年	9	月	100,000	円
	助成金等④	令和7年度埼玉県NPO活動促進助成事業	埼玉県		2025	年	6	月	462,000	円
	助成金等⑤	こどもの未来応援基金 令和7年度未来応援ネットワーク事業	社会福祉法人中央共同募金会		2025	年	3	月	3,000,000	円
申請する事業に従事する社員	氏名		役割							
	社員①	土橋 秀子	新規事業の全体統括、支援フレーム設計、個別支援の実施および冊子の企画・執筆・制作を担当							
	社員②	長沼 利枝	子どもの日常記録および関わりの実施、ケース会議への参加を担当							
	社員③	八巻 泉	ケース会議への参加、会計処理および事業記録の整理等の事務業務を担当							
	社員④									
	社員⑤									
	その他従事社員数		人							
	従事社員総数	3	人							

2. 申請する事業について

事業名	フリースクールにおける支援プロセスの構造化とモデル化に向けた実践事業	事業区分	ステップアップ支援事業	事業分野	こどもまんなか
事業対象	主に入間市および周辺地域	対象地域	埼玉県入間市他、埼玉西部地域	事業実施期間	2026/7/1 ~ 2027/2/28

解決したい地域課題及びその現状<300字程度>

不登校児童の居場所は近年、埼玉県西部地域でも徐々に増えてきたが、支援は各所で個別対応にとどまり、見立てや関わり方が体系化されていないため、支援の質にばらつきがある。特に低学年から不登校となった場合、学びの機会が限られ、学習への接続や集団での活動に難しさを抱えやすく、長期化につながるケースが少なくない。また、発達特性や環境要因が複合的に影響し、適切な関わりが整理されないまま固定化する課題がある。こうした状況から、支援の共通理解と再現可能な方法の整理が求められている。

上記の地域課題の解決に向けた事業の概要<300字程度>

当フリースクールにおいては、個別支援計画を持たないことが子どもの主体性や自由を尊重する姿勢として捉えられてきたが、本事業では、長期化している不登校児童(3~5名)を対象に個別支援計画を試行的に導入し、支援を実施・検証する。外部専門家の助言を受けながら支援フレームの試案を構築し、日常の観察記録および月1回のケース検討を通じて支援プロセスの整理を行う。得られた知見は冊子としてまとめ、支援者向けに共有し、不登校支援の在り方や支援の視点についての課題提起および意見交換の契機とする。

事業効果(※事業の効果はどのように県内広域に及ぶか、単一市町村内で行う事業の場合は、事業の効果が他の地域にどのように裨益するのか具体的に記載)<300字程度>

本事業により、個別支援の実践から長期化する不登校ケースの共通構造および有効な関わり方が明らかになる。これを冊子として整理・共有することで、他のフリースクールや支援機関においても活用可能な知見として波及し、支援の質の向上に寄与する。さらに、冊子を活用した学習会(研修)を実施し、県内全域の支援者に広く参加を呼びかけることで、支援の視点や課題の共有を促進する。単一地域での実践であっても、再現可能な形で整理・発信することにより、県内広域における支援の共通理解の形成につながることを期待される。

事業の発展性(これまでの取組を踏まえ、事業の自立的な運営や効果的な実施に向けてどのような工夫・改善を行うか具体的に記載)<300字程度>

本事業は、支援プロセスの構造化に向けた初期段階と位置づけている。今後は本年度の検証結果をもとに支援フレームの簡略化・汎用化を進め、他のフリースクール等での試行導入に向けた準備を行う。具体的には、支援フレームの整理や冊子の作成、学習会の実施を通じて活用可能な形で共有し、導入の基盤を整える。また、実践と検証を継続的に行いながら改善を重ねる仕組みを構築し、支援の質の向上につなげていく。また、支援者間での共有や対話の機会を継続的に設けることで、協力関係の拡大と知見の蓄積を図り、不登校支援の共通基盤を形成する。これにより、小規模な居場所でも活用可能な支援体系の確立と自立的かつ継続的な運用につなげていく。

事業の先駆性・モデル性(※事業の手法など他団体の取組のモデルとなり得るポイントを記載)<300字程度>

本事業は、フリースクールにおける個別支援を単なる実践にとどめず、支援プロセスとして構造化し、再現可能な形で整理する点に特徴がある。子どもの変化を軸に支援の有効性を検証し、自発的な行動の増加や活動への参加の変化、対人関係の広がり、情緒の安定等の指標をもとに継続的に記録・分析を行う。これにより、支援の効果を一定程度可視化するとともに、支援の改善に活用できる評価の枠組みを構築する。さらに、見立ての視点や関わり方を整理した支援フレームおよび冊子として共有することで、専門職が常駐しない小規模な居場所でも活用可能な実践モデルとして提示する。現場の経験を蓄積・共有し、展開していく点においても先駆性を有する。

対象地域や事業規模の拡大(※ステップアップ支援事業のみ、これまでの事業から具体的にどのように拡大させるのか具体的に記載)<300字程度>

フリースクールにおける実践を基盤とするが、法人の母体である発達障害の支援団体で形成してきたネットワークや、保護者・支援者としての経験を有する人材を活かして、他団体との連携を図る。支援フレームおよび知見を冊子として整理・共有することで、他のフリースクールや支援機関においても活用可能な形で展開する。子どもの学びや関わり方に課題意識を持つ支援者は多く、共通の課題をもとに対話や学びの機会を設け、支援者間のネットワークを強化する。さらに、他団体での試行導入に向けた関係づくりを進めることで、埼玉県域を中心に他地域にも展開し、関与する支援者の範囲を段階的に拡大し、地域を越えた支援の質向上につなげていく。

—

3. 申請事業の具体的な取組内容

取組 ①	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	支援フレームの設計と個別支援の実施		新規	7月 ~ 2月	埼玉県入間市	青少年活動センター他
	取組の目的<200字程度>					
	長期化している不登校児童に対し、個別支援計画を試行的に導入し、支援の見立ておよび関わり方を整理することを目的とする。外部専門家の助言を受けながら支援フレームを構築し、実践と検証(PDCA)を通じて子どもの変化と支援の関係性を明らかにする。発達特性や学習、遊びの視点を踏まえ、安心と自由度を損なわない支援プロセスの基礎を整理する。					
	取組の内容<100字程度>					
	外部専門家3名の助言を受けて支援フレームを設計し、対象児童(3~5名)に個別支援計画を適用する。日常の観察記録と月1回のケース検討を通じて支援の見直しと検証を行う。					
	対象者		事業実施回数	参加者数合計	事業収益見込額	
	長期化している不登校児童(3~5名)		月 1回 × 7か月 = 7回	各回 3名 × 7回 = 21名	1名あたり 0円 × 21名 = 0円	
従業社員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)			
3名	3名	2団体	NPO法人クーポン(門目氏)からは発達・学習の観点、一般社団法人OMUSUBi(金井氏)からは冒険遊び場および子育て支援の観点から助言を受け、現場見学を通じて支援フレームの作成に協力を得る。			

取組 ②	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	支援プロセスの整理と冊子作成		新規	9月 ~ 2月	埼玉県入間市	青少年活動センター他
	取組の目的<200字程度>					
	個別支援の実践を通じて得られた知見を整理し、不登校支援における課題や有効な関わり方を言語化することを目的とする。長期化するケースの共通要因や支援の視点を整理し、他のフリースクールや支援機関においても参考となる形でまとめることで、支援の共通理解の促進と質の向上につなげる。					
	取組の内容<100字程度>					
	実践記録とケース検討の内容をもとに支援の視点や関わり方を整理し、外部専門家の助言も踏まえ、長期化ケースの特徴や対応の考え方を冊子としてまとめ、支援者向けに活用可能な形で作成する。					
	対象者		事業実施回数	参加者数合計	事業収益見込額	
	支援者(フリースクール、支援機関等)		月 1回 × 5か月 = 5回	各回 3名 × 5回 = 15名	1名あたり 0円 × 15名 = 0円	
従業社員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)			
2名	2名	2団体	NPO法人クーポン(門目氏)からは発達・学習の観点、一般社団法人OMUSUBi(金井氏)からは冒険遊び場および子育て支援の観点から助言を受け、冊子作成の際の助言協力を得る。			

取組 ③	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	成果の共有と学びの機会の創出		新規	11月 ~ 2月	埼玉県入間市または所沢市	青少年活動センター 他(オンライン併用可)
	取組の目的<200字程度>					
	<p>本事業で整理した支援の視点や課題を支援者に共有し、不登校支援に関する共通理解を促進することを目的とする。冊子を活用した学びの機会を設け、支援の在り方や関わり方について意見交換を行うことで、現場間の知見の共有と支援の質向上につなげる。また、支援者同士の関係構築を図り、今後の試行導入に向けた基盤づくりとする。</p>					
	取組の内容<100字程度>					
	冊子をもとに学びの会(意見交換・共有の場)を実施し、不登校支援の視点や関わり方について対話を行う。参加者同士の交流を通じてネットワーク形成を図る。					
	対象者		事業実施回数		参加者数合計	
支援者(フリースクール、支援機関、教育・福祉関係者等)		月 1回 × 2か月 = 2回	各回 20名 × 2回 = 40名		1名あたり 0円 × 40名 = 0円	
従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)			
3名	3名	3団体	NPO法人子ども地域ネットワーク所沢 他、近隣市で不登校支援に取り組む団体と連携し、参加および意見交換の機会を設ける。			

取組 ④	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)	
				~			
	取組の目的<200字程度>						
	取組の内容<100字程度>						
	対象者		事業実施回数		参加者数合計		事業収益見込額
			月 回 × か月 = 0回	各回 名 × 0回 = 0名		1名あたり 円 × 0名 = 円	
	従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)			
名	名	団体					

取組 ⑤	取組名	新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	取組の目的<200字程度>				
	取組の内容<100字程度>				
	対象者	事業実施回数	参加者数合計	事業収益見込額	
		月 回 × か月 = 0 回	各回 名 × 0 回 = 0 名	1名あたり 円 × 0 名 = 円	
	従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)	
	名	名	団体		

4.申請事業の目標

事業全体の目標				
No.	目標	目標値	測定方法	
1	不登校支援における支援プロセスの視点を整理し、再現可能な形で共有する	冊子1冊作成、学びの会2回実施	冊子完成と学びの会実施記録により確認	
2	支援者間の共通理解の促進	参加者40名	理解度と満足度を測定(参加者アンケート)	
3				
4				
5				
各取組の成果指標				
No.	取組名	目標	目標値	測定方法
取組①	支援フレームの設計と個別支援の実施	個別支援計画の試行と支援フレームの設計	対象児童3~5名に実施、ケース検討7回	支援記録および会議記録により確認
取組②	支援プロセスの整理と冊子作成	支援プロセスの整理および冊子の作成	冊子1冊作成(印刷およびPDF)	感想・意見の聞き取りによる把握
取組③	成果の共有と学びの機会の創出	支援の視点の共有およびネットワーク形成	学びの会2回、参加者40名	実施記録および参加者数・属性の集計
取組④	0			
取組⑤	0			

5. 申請事業の実施に向けた課題とその解決のための取組・工夫等

課題①	具体的な課題	個別支援計画の導入経験が少なく、支援フレームの妥当性や実効性が不十分となる可能性がある
	課題解決のための取組・工夫	外部専門家(発達・学習・遊び分野)からの助言を受けるとともに、コンサルタントの助言を軸に支援の判断基準を整理する。日常の観察記録および月1回のケース検討を通じて支援内容の見直しを行い、子どもの状態や変化を継続的に把握する。また、保護者との定期的な情報共有により家庭での様子も踏まえた支援を行い、必要に応じて医療・福祉機関とも連携することで、多面的な視点から妥当性と実効性の確保を図る。
	目標	支援フレームの妥当性を確保し、実践に適用可能な形で整理する
課題②	具体的な課題	少人数事例での検証のため、知見の偏りや再現性の確保が難しい
	課題解決のための取組・工夫	これまでに関わってきた事例や短期間で社会参加に至った事例との比較に加え、継続的な記録および月1回のケース検討を通じて共通点と差異を整理し、支援の経過や変化を時系列で把握する。また、外部専門家の視点も踏まえながら見立てや関わり方の妥当性を検討し、個別性と共通性の両面から支援の特徴を整理する。
	目標	気づきや課題を言語化し、偏りの少ない視点の抽出と再現性の確保を図り、他の支援現場でも参考となる視点を整理する。
課題③	具体的な課題	多様な専門的助言を取り入れる過程で支援方針が分散し、一貫性のある支援の実施が難しくなる可能性がある
	課題解決のための取組・工夫	コンサルタントの助言を軸に支援の判断基準を明確化し、複数の専門的助言を整理・統合する。日常の観察記録および月1回のケース検討を通じて支援方針の見直しを行い、チーム内で共通認識を形成する。また、子どもの状態や意思を踏まえた判断を重視するとともに、保護者との定期的な情報共有を行うことで、支援の一貫性と柔軟性の両立を図る。
	目標	支援方針の一貫性を確保し、安心と自由度を両立した支援を実践できる状態を整える

6. 3年後(2029年度)、法人がどのように成長しているか<300字以内>

本事業で整理した支援プロセスをもとに、フリースクールにおける個別支援の視点や関わり方が体系化され、法人内で安定的に運用できる状態を目指す。また、冊子や学びの機会を通じて得られた知見を継続的に更新し、他のフリースクールや支援機関とも共有することで、地域内における支援の共通理解の形成に寄与する。さらに、小規模な居場所でも活用可能な支援の枠組みとして発展させ、子どもの学びや社会参加を支える多様な選択肢の一つとして位置づけられることを目指す。

収支予算書

法人名 特定非営利活動法人 マナビダネ
 事業名 フリースクールにおける支援プロセスの構造化とモデル化に向けた実践事業

1. 収入の部 511,350

項目		予算額(円)	積算内訳							
a.助成金交付申請額		500,000	※千円未満切り捨て/採択区分により補助率と交付額が変わる可能性があります							
b.自己資金		11,350	※自動計算							
c.事業実施による収入等		0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(収入の内容)	(該当する事業)	0	円		×	人		×		回
(収入の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(収入の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(収入の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(収入の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
d.その他		0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(収入の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(収入の内容)	(該当する事業)	0			×			×		

2. 支出の部 511,350

項目		予算額(円)	積算内訳							
a.会場費		0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
b.通信運搬費		0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
c.旅費交通費		0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		
(支出の内容)	(該当する事業)	0			×			×		

d.消耗品費				10,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	冊子作成等のためのコピー用紙代	(該当する事業)	事業2	3,000	3,000	円	×	1	箱	×		
(支出の内容)	冊子作成等のためのプリンタインク代	(該当する事業)	事業2	5,000	5,000	円	×	1	個	×		
(支出の内容)	学びの会で利用する文具類	(該当する事業)	事業3	2,000	2,000	円	×	1	個	×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
e.備品費				0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
f.委託費				148,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	支援フレーム設計および検証に係るコンサルティング業務委託費	(該当する事業)		60,000	60,000	円	×	1	式	×		
(支出の内容)	冊子の印刷費用 300部	(該当する事業)		33,000	110	円	×	300	冊	×		
(支出の内容)	冊子編集支援業務(構成設計・内容整理・文章校正)	(該当する事業)		55,000	5,500	円	×	10	ページ	×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
g.謝金				80,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	外部専門家謝金(発達・学習・遊びの視点からの現地助言)	(該当する事業)		80,000	20,000	円	×	4	回	×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
h.人件費				272,300	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	土橋秀子 人件費(本新規事業に係る業務分・内規に基づき設定)	(該当する事業)		154,000	2,000	円	×	11	時間	×	7	月
(支出の内容)	長沼利枝 人件費(本新規事業に係る業務分)	(該当する事業)		72,800	1,300	円	×	8	時間	×	7	月
(支出の内容)	八巻泉 人件費(本新規事業に係る業務分)	(該当する事業)		45,500	1,300	円	×	5	時間	×	7	月
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
i.その他				1,050	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位
(支出の内容)	人件費・委託費の振込手数料	(該当する事業)		1,050	150	円	×	7	回	×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×		